

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

In Honour of Professor Morio Kohno

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 1998-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村田, 純一, Murata, Junichi メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1662

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



河野先生を送る辞

村 田 純 一

私が河野先生と初めてお会いしたのは13年ほど前のことになります。それだけの期間で先生のことを語る資格があるとは思えませんが、私の知る限りの河野先生像を書きとめて送る言葉にしたいと思います。

大学人としての役割に研究、教育、大学運営の3つがあるとすれば河野先生はその3つの中で特に研究と教育の両面に関して、常人を超えるご活躍をされたことは多くの人に知られていることと思います。

研究面ではその業績を見れば一目瞭然で、大変広い分野にわたっており、とりわけ日本の英語教育の中で、いわば革命をおこした人物であります。以前は英語教育という学問がともすれば研究者の個人的経験や直観に基づく議論に終始する傾向があったことを憂慮され、ことあるごとに、先生の口からは「英語教育は科学的、実証的に研究されなければならない。そうでなければいつまでも英米文学や英語学に見劣りする学問のままの状態が続く。それには単なるテクニックやメソッドではなく、アプローチに迫る研究をすべきである。」という主旨の言葉をお聞きしたものです。そして、自らその目標を実現すべく様々な実験・研究を積み重ねて、音声学、心理言語学、神経心理学、脳生理学などの幅広い分野に研究の枠を広げ、いわゆる学際的な研究をめざし、常に学界をリードし中心的な役割を果たしてこられました。

私が河野先生に畏敬の念を最も感じたのは、ご自身のご病気、お怪我、さらに身内のご不幸などが重なった90年代のはじめに決して研究への情熱を失うことなく、むしろそれまでもまして数々の業績を残されたことです。入

院されてもベッドの上で原稿を書かれている姿には真の研究者を見る思いをしたのは私だけではないと思います。

教育面においてもその活躍ぶりは顕著で、河野先生のゼミからは優れた学者が数多く輩出しております。先生の退職記念パーティの参加者の中に大学の職についているものが20名を超えていたという事実がこのことを如実に示しております。先生は、ゼミ生がいわば自分の子供のように思えるとよく仰っていましたが、ゼミ生への面倒見の良さはまさしくそれを表していました。そして、ゼミ生の方も先生を父親のように慕っていることは上で述べた退職記念パーティでの暖かい雰囲気から感じられたものです。

大学人の第三の役割、すなわち大学運営においては、本人が最後の教授会の挨拶の中で「後悔の念がある」ともらされましたが、確かに重要ポストに就くことはなかったようです。しかし、研究、教育における国内外でのご活躍で神戸外大の名を高められたという点で間接的ではあるにせよ、大きな役割を果たしたことは教授会の構成員や事務職員の皆さん、さらには多くの卒業生が認めていることと思います。

河野先生は現在海星女子学院大学で研究・教育・さらに大学運営においても中心的な存在としてご活躍のご様子で、外大におられた時の情熱そして常に前向きで将来を見通す姿勢には全く変わるところが見られません。あるゼミ卒業生が先生を称して「永遠の青年」といっておりましたが、まさにその通りでしょう。あえて私がもう一つ、加えるとしたら、陳腐な言葉で恐縮ですが「学者の鑑」であります。どうかいつまでもお元気で。